

# シンポジウム「歌と文化的記憶-表現と社会」

Department of Human Development and Environment, KOBE UNIVERSITY

寺島尚彦により作詞作曲された《さとうきび畑》は2017年に50年目を迎える。昨今、表現分野では、歴史上の出来事を刻印した表現を「文化的記憶」(アライダ・アスマン)と捉え、作品の歴史的価値や意義が再評価されている。本企画は、シンポジウム「歌と文化的記憶-表現と社会」を学び議論する場、作曲者を中心に長年続けられてきた《さとうきび畑こんさあと》を文化的記憶を繋ぐ実体験の場と位置づけて、シンポジウムと実演というかたちで、音楽表現と社会の問題について議論を深めることを目的とする。



日 時

2016年 11月 19日 (土) 14:00~17:30

会 場

C棟 101教室 神戸市灘区鶴甲3-11 神戸大学 発達科学部 キャンパス

入 場

入場無料 (事前予約不要)

対 象

学生・院生、卒業生、教職員、一般

## 「歌と文化的記憶-表現と社会」基調講演・研究発表

本企画は2016年11月19日のシンポジウム「歌と文化的記憶-表現と社会」と2017年2月4日の《さとうきび畑こんさあと神大編》で構成される。本シンポジウムでは、表現系の大学院生及び学部生を中心に、基調講演に音楽社会学者の宮本直美氏、音楽文化史の大田美佐子氏、コメンテーターに社会学者の橋本直人氏、民族音楽学者の谷正人氏を迎え、「文化的記憶としての歌」について個々の研究発表を行い、音楽学、社会学両方の側面から議論する。

### I. 第1部. 音楽と社会-歌と文化的記憶

#### 基調講演1 宮本 直美 (音楽社会学)

立命館大学大学院 文学研究科 教授

#### 共に歌うことの社会学

- 集会的記憶と集会的感情 -

#### 基調講演2 大田 美佐子 (音楽文化史)

神戸大学大学院 人間発達環境学研究所 准教授

#### ソング研究から見てきたもの

- キャバレー・ソング、  
プレヒト・ソングから反戦歌へ -

#### コメンテーター 橋本 直人 (社会学)

神戸大学大学院 人間発達環境学研究所 准教授

#### 谷 正人 (民族音楽学) コメンテーター

神戸大学大学院 人間発達環境学研究所 准教授

### II. 第2部. 歌の変容-対話的音楽文化史の展開-多層的な記憶

発表者	研究発表 (タイトル)
肥山 紗智子	焼け跡に流れた希望の唄 - 「リンゴの唄」の受容をめぐる -
山村 磨喜子	勝田保世がみたスペイン - 内戦と第2次世界大戦下におけるフラメンコについて -
吉田 有希	戦争による影響下での宝塚と人々の夢
小田 智美	小林愛雄の訳詞にみる浅草オペラの隆盛 - 「ボッカチオ」を例に -

### III. 第3部. 戦時下の表現-埋もれ、呼び覚まされる記憶

多田 桃子	戦争の記憶の継承 - フォークソング「教訓 I」から継承されるもの -
土居 あすか	音楽による告発-作曲家、吉田隆子の闘い
下 万佑子	戦時下の学生の歌からみる教育と反戦意識
稲尾 侑紀	戦後合唱によって語り継がれる戦争の記憶
各務 青湖	こまつ座の劇中歌とその効果
難波 優輝	魅惑するシレーヌ-日本の軍歌、死の美学化

【主催】神戸大学大学院 人間発達環境学研究所

【お問い合わせ】大田研究室 misaohta@kobe-u.ac.jp